

- 1、新聞の「発言」欄に、ある高校生の「不登校しても自殺しないで」という投書が出ていた。「いじめが原因で自殺する10代が増えている。……無理して学校へ行くよりも、とりあえずは、とにかく生きていてほしいと私は願う」(東京2/12)。きっと、差し迫った問題を抱える友人が身近にいるのだろう。「命の問題」は「とりあえず」対処しなければならないのだ。
- 2、今日の聖書テキストはイエスの譬え話「実のならないいちじく」の話。イエスの時代これとよく似た民話が流布していた。そこでは木は切り倒されてしまう。イエスは此の民話を下敷きに、「とりあえず」「命をぶった切るな」と緊急判断を述べた。
- 3、パレスチナでは、ぶどう園には果樹園のように他の木が植えられていた。7節。このいちじくも、最初の3年間は成長する期間として期待され、猶予されたが、実を結ぶ見込みがない、土地をふさぐだけだ、「ぶった切る」と持ち主は考えた。いちじくは養分を良く吸う。8節。しかし、この園丁(職人)は「肥料をやってみます」と。いちじくの施肥は普通はなされない。畑の経営、ぶどう園の利益よりも、彼は目の前の植物の命からも考えた。長年の人生で身に付けた、職人氣質の思考である。「イエスの物語る出来事はいずれの場合も生の模写である。」(A ユーリヒツヒャー)。効率(お金)から考えるのではなく、自然(命)から考えよ、との基本的命題を含んでいる。
- 4、この譬えを、イエスの内面に踏み込んで関係づけて考えている新約聖書学者がいる。「神の国」を天の祝宴として把握していたのがイエス。「神の国」は天上では実現している。地上ではそうすんなり行かない。イエスの内なる現実と、実際の宣教の局所性との間にギャップがある。つまりこの譬えは、イエス自身の内側の不調和・葛藤を垣間見させる(大貫隆)。「とりあえず、木を切るな」。効率の思考を止めよ。通俗的したり顔の思考を止めよ。「神の国」の到来を願い、祈り、「まず、待て」という「いのち」への思考と行動を「とりあえず」守れという緊急な促しを聞く。
- 5、「いのち」とは神との関わりで保たれる人間の限りない尊厳である。最近の日本の安倍政治は如何に安易に、その命を「ぶった切る」方向へと舵を切っていることか。原発再稼働。憲法9条のなし崩し、集団的自衛権。今、原発企業訴訟が起こされている(私も原告の一人に加わった)。「脱原発」は命の軽視への闘いである。広島、長崎、福島の実実に本当に目を留めれば黙ってはられない。「慰安婦」問題。ユン・ミヒャン氏(韓国挺身隊問題対策協議会協常任理事)は、これは「命」の問題だと、NHK榎井会長の「どこでもあった」との発言を厳しく抗議している。命への暴力の行使について「切るな、まず、待て」との叫びを大事にしたい。

教会内の事にあえて引き寄せて考えれば、「新しい教会像」は、「命」(△ではなく○の在り方)に繋がっていないだろうか。提案を「切って」はならない。育つのを「まず、待とう」。